



有価証券

使い方

- 画面をクリックするとプログラムが進んでいきます。
-  をクリックすると次のページに進みます。
-  をクリックすると前のページに戻ります。
- ページ数は右下に表示されています。

目次

1. 有価証券とは
2. 有価証券の購入・売却
3. 配当金の受け取り・有価証券の評価替え



今回は私が案内するよ！

今回は有価証券について説明する。

1. 有価証券とは

今回は有価証券について説明するよ！

有価証券について本格的に扱うのは日商簿記の2級・1級だから、3級では簡単な仕訳しか問われないので、気楽にイメージできればいいよ。

まずは、簿記での有価証券について説明するよ。

簿記で言う有価証券とは、

1. 会社が発行する株式
2. 会社が発行する社債
3. 国債・公債

に限る。

特に試験に出るのは、1と2が多いよ。

ここでは、もう少し説明しておこう！



1. 有価証券

有価証券とはまさにその名の通りで、
財産的価値を表す紙面
という意味だ。

だから、広い意味ではテレホンカードや馬券も有価証券といえる。

でも、簿記の世界では、その中でも、先ほど挙げた

1. 会社が発行する株式
2. 会社が発行する社債
3. 国債・公債

のことを有価証券というんだ。

まあ、すぐになれると思うよ！

簿記3級は基本的に個人商店のための簿記なので、
あまり複雑な事柄は出てくることはない。



2. 有価証券の購入・売却

(借方)	貸借対照表	(貸方)	(借方)	資産	(貸方)
	資産 100,000	負債 40,000		増加(+)	減少(-)
		資本 60,000			

有価証券は資産に含まれる勘定なので、
増加は借方(左側)に、減少は貸方(右側)に記入するんだ！

☆有価証券が増加したとき(購入など)
(借方) **有価証券** ××× (貸方) ×××

☆有価証券が減少したとき(売却など)
(借方) ××× (貸方) **有価証券** ×××



2. 有価証券の購入・売却

有価証券を購入するときにかかった手数料は購入代金に含むよ。
これは商品を仕入れるときの費用は仕入に含めるのと同じだ。

また、有価証券は購入時の額で帳簿に記入してあるんだけど、
売却時にも同じ額だとは限らないものだ。

(例えば、株価って変動するものだよね！)

そのときには、帳簿価額よりも高く売ったときには有価証券売却益、
帳簿価額よりも安く売ったときには有価証券売却損を使うんだ。

それでは、具体的に見ていこう！



2. 有価証券の購入・売却

まず、購入したときの仕訳だ。

A社はB商店の株式20株を1株につき¥40,000で購入し、代金は手数料¥10,000を含めて月末に払うことにした。

資産の増加

(借方) 有価証券 810,000 (貸方) 未払金 810,000

負債の増加

手数料を含めて全部で81万円分の株式を買っていることになるんだ。商売としての取引ではないため、買掛金などを使うのではなく、未払金を使うのは今までの復習だ。

忘れていた人は復習しておいてね。



2. 有価証券の購入・売却

次は、売却するときの仕訳だ。
帳簿には購入価格が記されているということをしっかり認識しておいて欲しい。

A社はB商店の株式10株(1株の取得金額40,500)を1株につき
¥43,000で売却し、代金は月末に受け取ることにした。

資産の増加

(借方) **未収金 430,000** (貸方) **有価証券 405,000**
有価証券売却益 25,000

資産の減少

収益の発生

帳簿上は405,000円分の株が430,000円で売れたので、
25,000円分は収益として処理しているんだ。

自分なりに順を追って理解して欲しい！



3. 配当金の受け取り・ 有価証券の評価替え

ここで、有価証券の中でも株式についてもう一度見てみるよ。

大雑把に言うと、株式を買うと言うことは会社の一部を買うことだ。
小さな会社ならまだしも、大きな会社は一人や二人のお金では
運転資金を調達できない。

そこで、株式を発行して、それを多くの人に買ってもらうことで、
そのお金を調達するんだ。

当然、そのお金で儲けたお金は、株主と分けなければならない。
これを簡単に図で表してみるよ。

こんな額一人では出せない！



1000等分すれば

1株10万円

10万円の
株を買って
くれる人を
1,000人集
めれば、1
億円は手に
入る

そのかわり、
儲かった分
はこの株を
買ってけれ
た人と分け
なければなら
ない。



3. 配当金の受け取り・ 有価証券の評価替え

つまり、他の会社の株をもっていれば、その分の配当金を
受け取ることができるんだ。
長々と説明してきたけど、ここでは配当金の処理を説明するよ。

処理自体はとても単純で、受取配当金という収益勘定を使うだけだ。

A社はB商店より配当金領収証 ¥30,000が送付された。

資産の増加

(借方) **現金 30,000** (貸方) **受取配当金 30,000**

収益の発生

配当金の領収証はすぐに現金と交換できるため、
現金勘定で扱うことにも注意して欲しい！



3. 配当金の受け取り・ 有価証券の評価替え

今は有価証券の

1. 会社が発行する株式
2. 会社が発行する社債
3. 国債・公債

のなかで1を説明したけど、次は2・3を説明する。

社債は会社がする借金的一种、国債・公債は公的機関がする借金の一种と理解すればよい。

会社がする借金といえば借入金や手形借入金があるけど、社債はお金を貸してくれる人を広く募ってする借金なんだ。

もちろん社債や国債を購入するということはお金を貸してあげていることなので、その分利息がもらえる。
その利息は有価証券利息という収益の勘定を使うよ。



3. 配当金の受け取り・ 有価証券の評価替え

では、具体的に見てみよう。

A社はD株式会社の社債額面¥1,000,000の利札が支払期限を迎えた。利率は年5%、利払い日は年2回である。

資産の増加

(借方) **現金 25,000** (貸方) **有価証券利息 25,000**

収益の発生

問題を解いていけば慣れると思うけど、計算過程を理解して欲しい。

$$1,000,000 \times 0.05 = 50,000$$

で、これが年2回に分けて払われるわけだから、このときの処理は半分の25,000円となる。

イメージできたかな？



3. 配当金の受け取り・ 有価証券の評価替え

最後に、有価証券の評価替えについて説明するよ。

さっきも言ったように、有価証券は取得価額を帳簿に記入している。帳簿を元に貸借対照表や損益計算書が作られるわけだから、何も処理をしなければ取得価額が貸借対照表に表示されることになるわけだ。

でも、たとえば期中に買った500万円分の株が期末に10万になったとしよう(あくまで例だよ)。

そのとき、取得価額の500万で外部公表してしまうことは、正しい状態を公表しているといえないよね。だって売ったとすると10万円でしか売れないんだから。

そこで、期末には有価証券を時価で評価しなおすことがある。これを有価証券の評価替えという。



3. 配当金の受け取り・ 有価証券の評価替え

期末の時価が評価額よりも高いときには、その増えた分は
有価証券評価益、評価額よりも低いときには、その減った分は
有価証券評価損として処理するんだ。
まあ、具体的に見ていけばすぐにわかるよ！

決算にあたり、所有しているB商店株式(帳簿価額¥405,000、
10株)を、一株あたり¥42,000に評価替えする。

資産の増加

(借方) 有価証券 15,000 (貸方) 有価証券評価益 15,000

収益の発生

結果として、B商店の株式は $42,000 \times 10 = 420,000$ 円とするのが
正しいので、420,000と405,000の差の分の15,000円は
有価証券の増加として、有価証券評価益という収益勘定を使うんだ。
理解できたかな？



まとめ

1. 有価証券とは
簿記の世界では

- ・会社が発行する株式
- ・会社が発行する社債
- ・国債・公債

2. 有価証券の購入・売却

売却時には、差額は有価証券売却益・有価証券売却損を使う。

3. 配当金の受け取り・有価証券の評価替え

配当金の受け取りは受取配当金

社債の受け取りは有価証券利息

評価替えは有価証券評価益・有価証券評価損

似た名前の勘定もあるので、しっかり区別して欲しい！



終わりに

お疲れ様、今日はここまで！

以前の知識を前提としている部分も入れてあるから、
わからないところがあったらフラッシュで見るか、テキストで
復習するかして補って欲しい。

それでは！



制作者情報

- 簿記フラッシュ-日商簿記3級
<http://boki3.source-of-information.com/>
これまで作成したフラッシュと内容を公開しています。
- ご意見・ご感想等ございましたら、
info@source-of-information.com
までお寄せ下さい。